DISCO

2013年度 日経就職ナビ 就職活動モニター調査結果(2012年10月発行)

株式会社ディスコ
キャリアリサーチ

第8回調査　１０月１日現在の就職活動状況

１．１０月１日現在の内定状況

10 月 1 日現在の学生モニター全体の内定率は 81.0%。前回調査（7 月 1 日時点）では 70.8%だったので、この 3 カ月で 10 ポイントあまり上昇した。昨年は、東日本大震災の影響で選考時期が遅かったため、7 月から 10 月の伸びが約 15 ポイントと夏場以降の追い上げが目立ったが、今年は早い時期から高い内定率を維持しており、夏場にさらに大幅に伸びることはなかった。企業の採用意欲は依然高いが厳選採用の姿勢を崩しておらず、前年を下回ることはないにしても、今後内定率が伸びるかどうかは不透明だ。

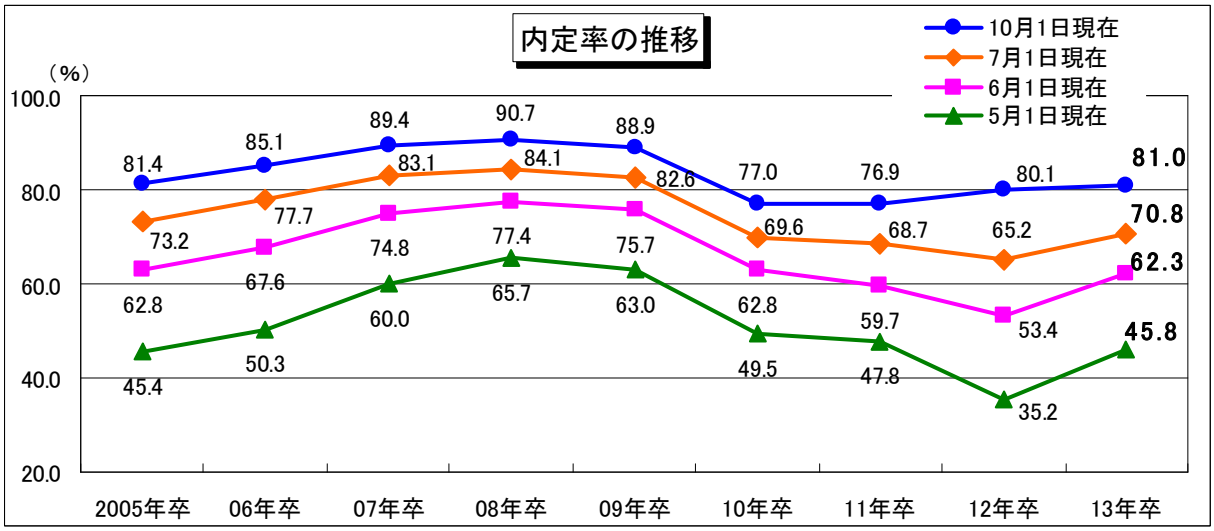
内定者のうち就職先を決定して活動を終了したのは 92.0%で、前年同期と同水準。モニター全体を分母にすると 74.5%になり（次ページ円グラフ）、ここに「活動は終了したが複数内定保持」を足し合わせると、10 月 1 日時点での就職活動終了者は全体の 75.6%となる。

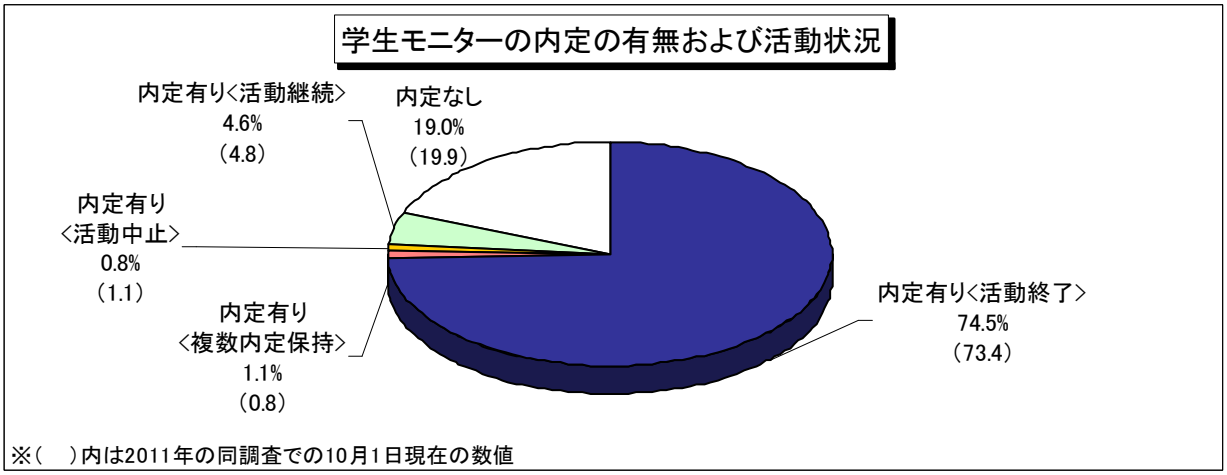
10月1日現在の内定の状況　＊「内定」には、内々定を含む

（%）

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	国公立	私立
内定有り		81.0 (80.1)	80.7 (79.9)	80.8 (84.6)	80.4 (78.4)	84.5 (74.3)	84.3 (83.9)	78.4 (77.0)
内定なし		19.0 (19.9)	19.3 (20.1)	19.2 (15.4)	19.6 (21.6)	15.5 (25.7)	15.7 (16.1)	21.6 (23.0)
内定社数（平均／社）		1.9 (1.9)	2.1 (2.0)	1.8 (1.7)	1.8 (1.8)	1.8 (1.5)	1.9 (1.8)	1.9 (1.9)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	92.0 (91.6)	91.4 (90.6)	89.2 (91.6)	95.4 (93.0)	91.4 (91.4)	94.3 (94.2)	90.0 (89.4)
	活動は終了したが複数内定保持	1.3 (1.0)	1.0 (0.4)	2.5 (0.9)	0.8 (1.3)	1.1 (2.5)	1.9 (1.3)	0.8 (0.7)
	進学などの理由で就職活動を中止	1.0 (1.4)	1.0 (1.1)	1.3 (0.4)	1.1 (2.2)	0.0 (2.5)	1.2 (1.3)	0.8 (1.4)
	就職活動継続	5.7 (6.0)	6.7 (7.9)	7.1 (7.1)	2.7 (3.5)	7.5 (3.7)	2.6 (3.2)	8.4 (8.5)

※(　)内は 2011 年の同調査での 10 月 1 日現在の数値

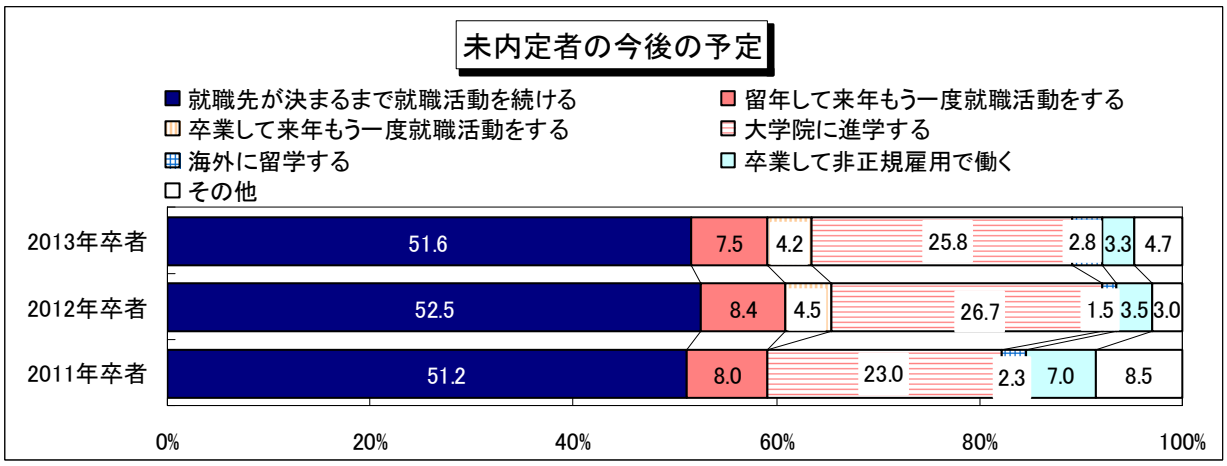




２．未内定者の今後の予定

10 月 1 日現在で内定を得ていない学生（モニター全体の 19.0%）に、今後の予定を聞いた。最も近いものを 1 つだけ選んでもらったところ、「就職先が決まるまで就職活動を続ける」が前年同様に半数を超え、最も多かった。一方で、「留年して来年もう一度就職活動をする」という人は 7.5%。増加傾向にあると指摘される就職留年組だが、10 月時点で決めている割合は微減した。「卒業して来年もう一度就職活動をする」と就職浪人を決めているのも 4.2%にとどまった。卒業後 3 年以内は新卒として受け付けるという企業は一定数あるものの、実際に採用するかどうかは別問題であり、既卒者は狭き門であることを学生側も知っているようだ。

未内定者の今後の進路は文理で大きな差がある。文系はあくまで就職活動継続者が多いが（文系男子 56.0%、文系女子 73.7%）、理系は「大学院に進学する」が多い（理系男子 54.7%、理系女子 35.3%）。理系は修士で就職活動をするのが一般的ということも背景にあるだろう。

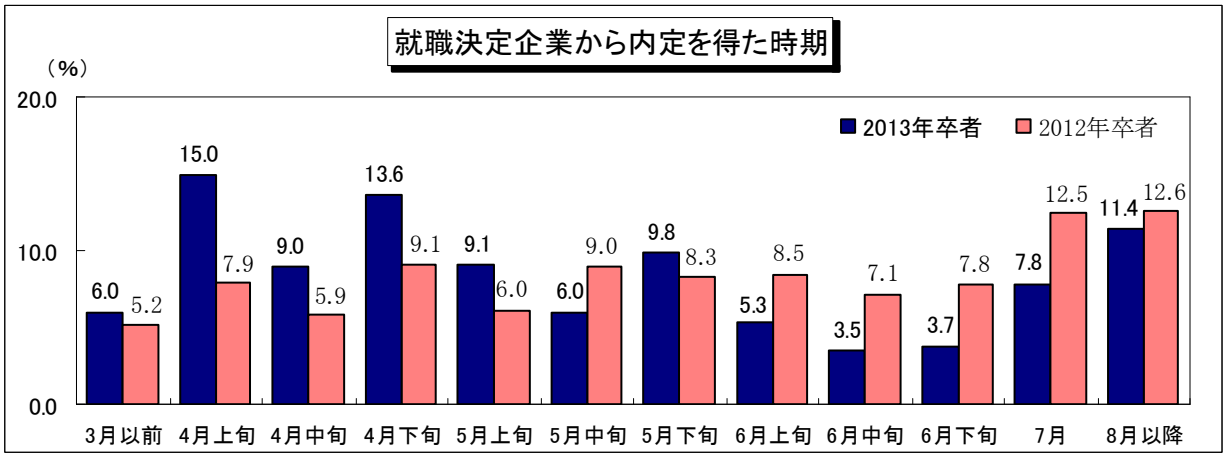


（%）

	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
就職先が決まるまで就職活動を続ける	56.0	73.7	31.3	35.3
留年して来年もう一度就職活動をする	9.3	5.3	4.7	17.6
卒業して来年もう一度就職活動をする	5.3	3.5	3.1	5.9
大学院に進学する	13.3	7.0	54.7	35.3
海外に留学する	4.0	3.5	1.6	0.0
卒業して非正規雇用で働く	4.0	5.3	1.6	0.0
その他	8.0	1.8	3.1	5.9

３．就職決定企業から内定を得た時期

同じく「就職先を決定し、活動を終了した」と回答した人に、その企業から内定を得た時期を聞いた。前年と比較すると、今年の特徴がよく分かる。前年は全体的に分散しており、過半数に達したのは「5 月下旬」だった。これに対し、今年は 4 月に集中しており、上旬から下旬を足し合わせると 37.6%にのぼる。「3 月以前」を加えると 43.6%と 4 割を超え、過半数超えは「5 月上旬」。前年は言うまでもなく震災の影響が大きいが、それにしても今年の就活生はかなり速いペースで就職先を決め、就職活動を終了していったことが分かる。

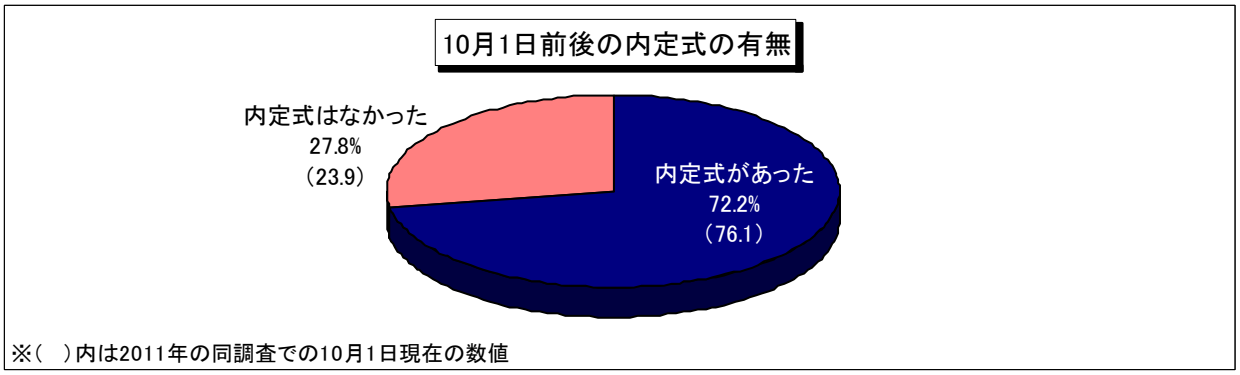


４．内定式について

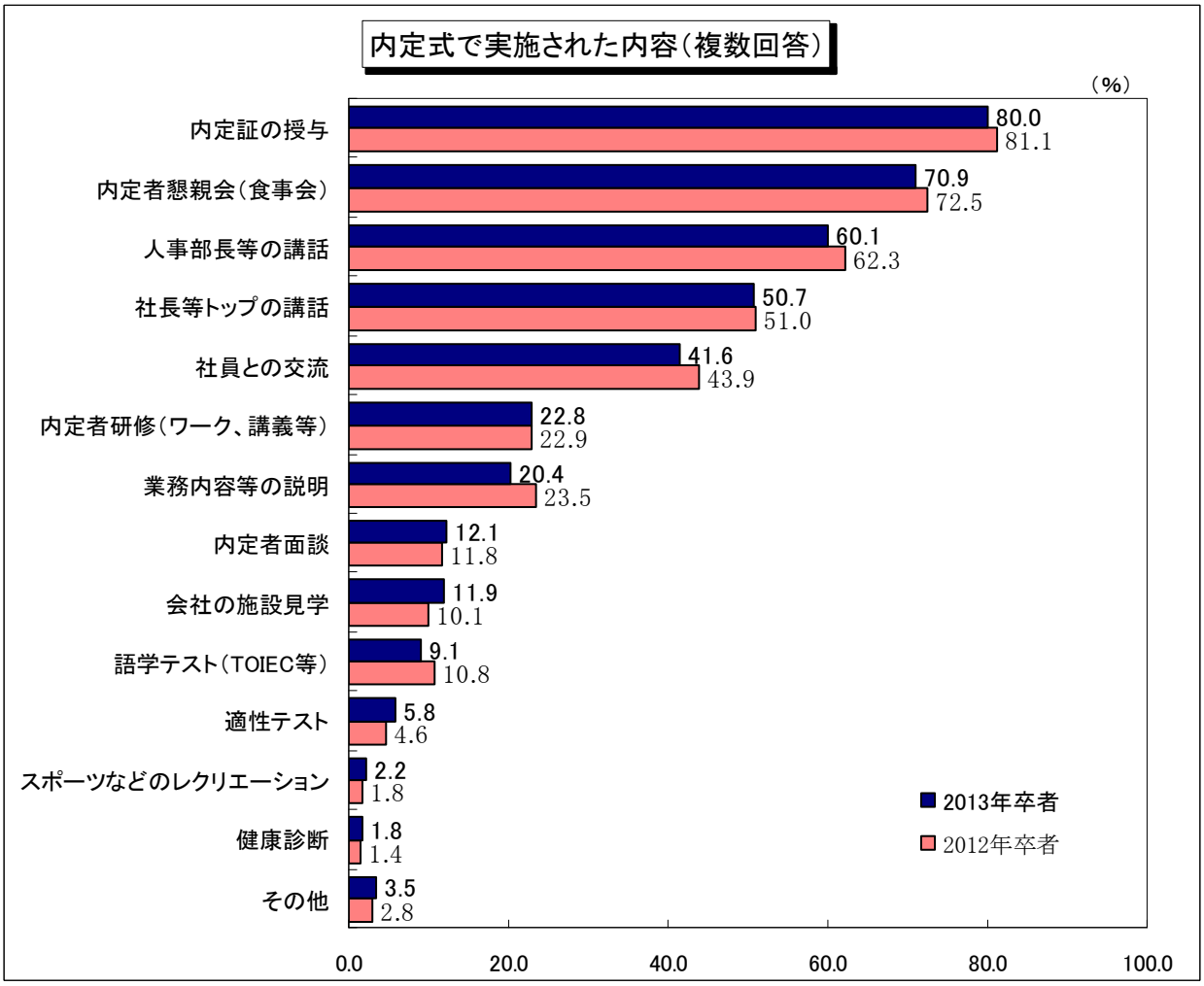
10 月 1 日前後の内定式の有無を聞いた。「内定式があった」のは 72.2%で、「なかった」が 27.8%。内定式があった学生は前年調査より 3.9 ポイント減った。「なかった」学生の内定先を見ると、採用活動継続中で内定者が出揃わない企業や採用数の少ない企業、または官公庁・団体などが多い。開催日は、倫理憲章で正式内定日と謳われている「10 月 1 日」が 79.9%と集中している。

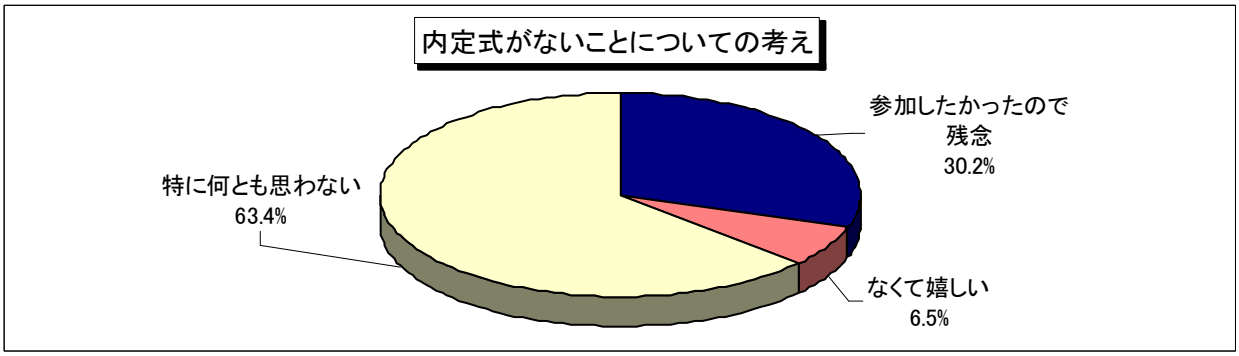
実施された内容に前年と大きな変化は見られない。今年は内定者の理解不足を補うため「業務内容の説明」が増えると予想していたが、逆に減っており、十分に理解した学生に内定を出したか、または内定式とは別の機会にフォローしているということなのだろう。

内定式がなかった学生に心情を聞くと、「特に何とも思わない」が 63.4%と大勢を占めたものの、「参加したかったので残念」が 30.2%と 3 人に 1 人にのぼり、今後一考の余地はありそうだ。



株式会社ディスコ
キャリアリサーチ

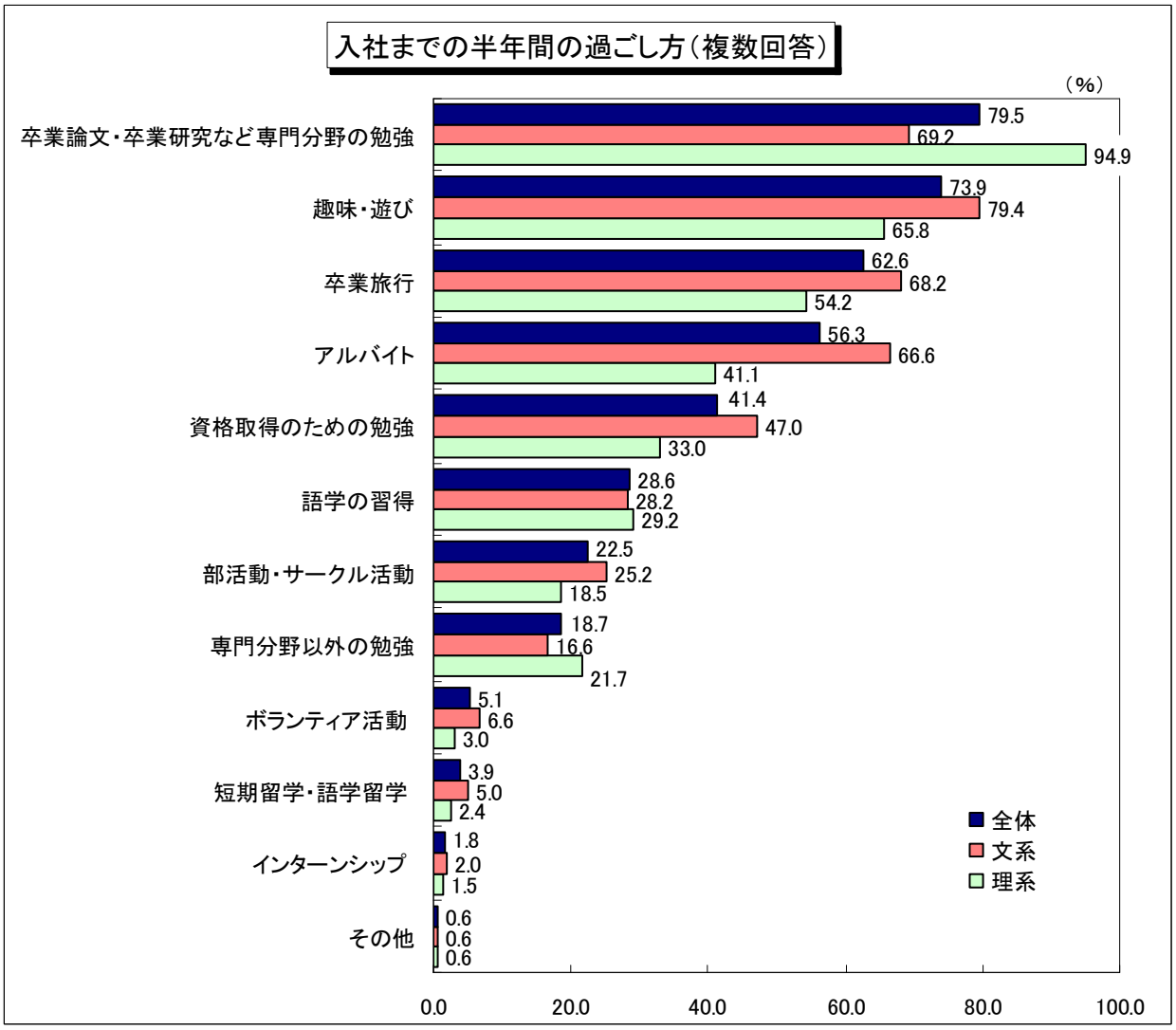




５．入社までの半年間の過ごし方

就職活動を終了している人に、入社までの約半年間、どんなことをして過ごす予定かを聞いた。

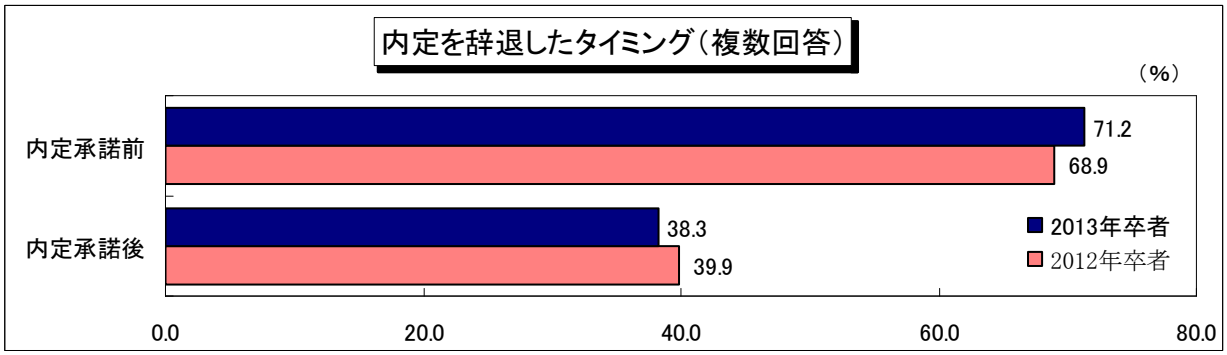
最も多かったのは「卒業論文・卒業研究など専門分野の勉強」で79.5%と約8割。但し、文理で差があり、文系69.2%に対し理系は94.9%と9割を超えている。逆に文系のほうが高いのが「アルバイト」。文系は66.6%と6割を超えているが、理系は41.1%にとどまる。ちなみに、文系が最も多い項目は「趣味・遊び」の79.4%。残りの学生生活をどう過ごすかは文理で大きく異なることが分かる。入社前研修や自宅での学習プログラムなど、内定期間中に何らかの課題を出すのは一般的ではあるが、学業の妨げにならないよう量や時期に気をつけたい。

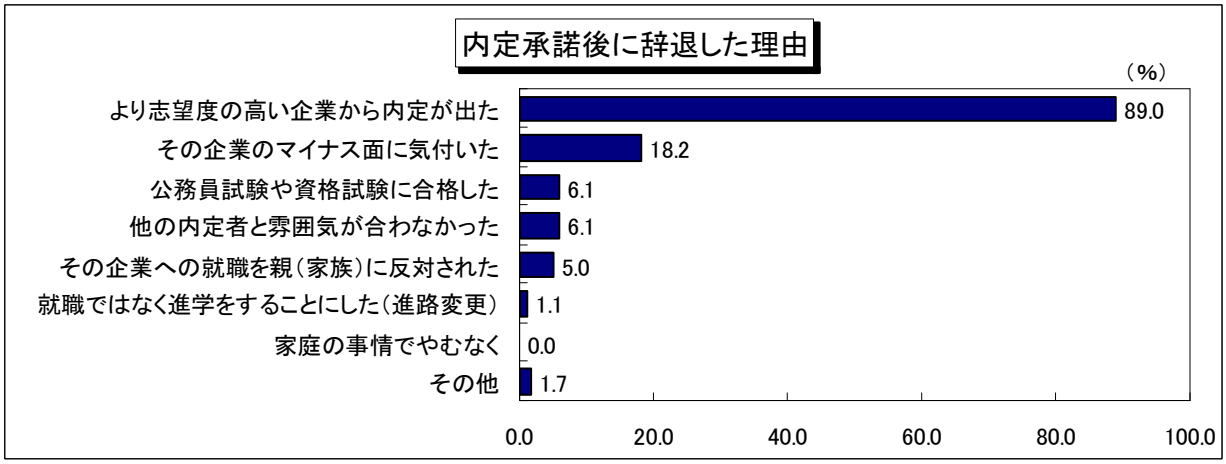


株式会社ディスコ
キャリアリサーチ

６．内定承諾後の辞退

企業からの内定を辞退したことがある学生に、辞退のタイミングを聞いたところ、「内定承諾前」が71.2%、「内定承諾後」が38.3%だった。承諾後に辞退した人にその理由を聞くと、「より志望度の高い企業から内定が出た」が89.0%と圧倒的に多かった。承諾前か後かに関係なく、志望度優先で決めることがはっきりと表れている。次に多いのは「その企業のマイナス面に気付いた」で18.2%と約2割。一方、辞退についての相談相手は、大学群によって差が大きい項目があるものの、どのグループでも「家族・親戚」が約7割で最も多い。7月調査で聞いた「就職先決定に迷った時にとった行動」でも「親に相談した」は筆頭であり、最終局面での親の影響力の高さを物語る。





■内定承諾後に気付いたマイナス面

○採用数が多く、内定者へのフォローが他社と比べて粗いという点。入社後の人事制度に不安を感じた。＜文系男子＞
○内定後にOB訪問を行いました。そこで説明会にあった話とはかけ離れた現状を知らされた。　＜文系男子＞
○一年目からプロ意識で仕事をしなさいという言葉に感銘を受けて就職したいと感じたが、OJTもなく、本当にやっていけるのか不安に押しつぶされそうになったため。　＜理系男子＞

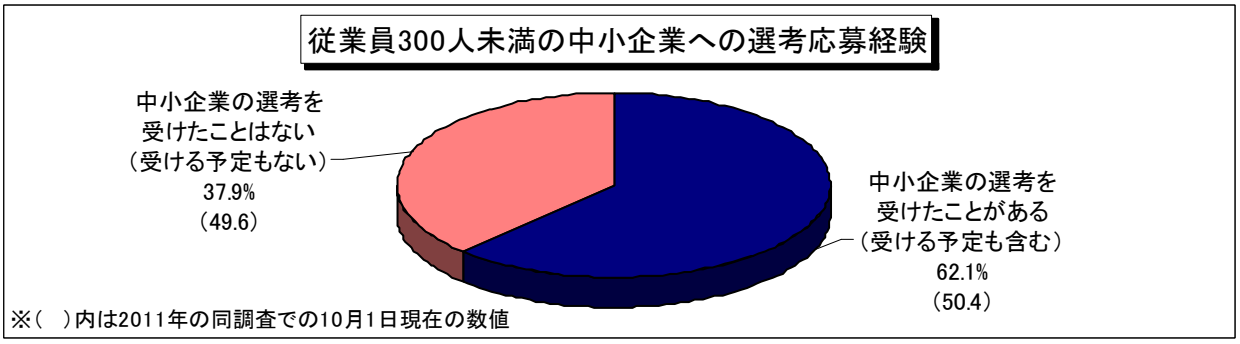
内定承諾後の辞退について相談をした人

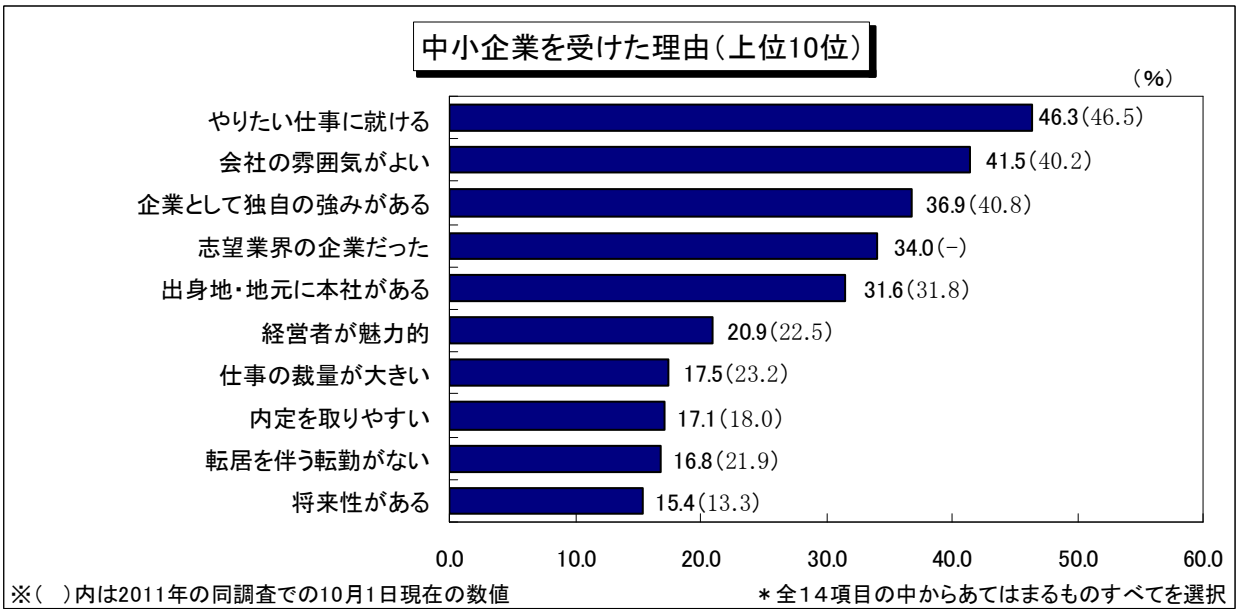
（%）

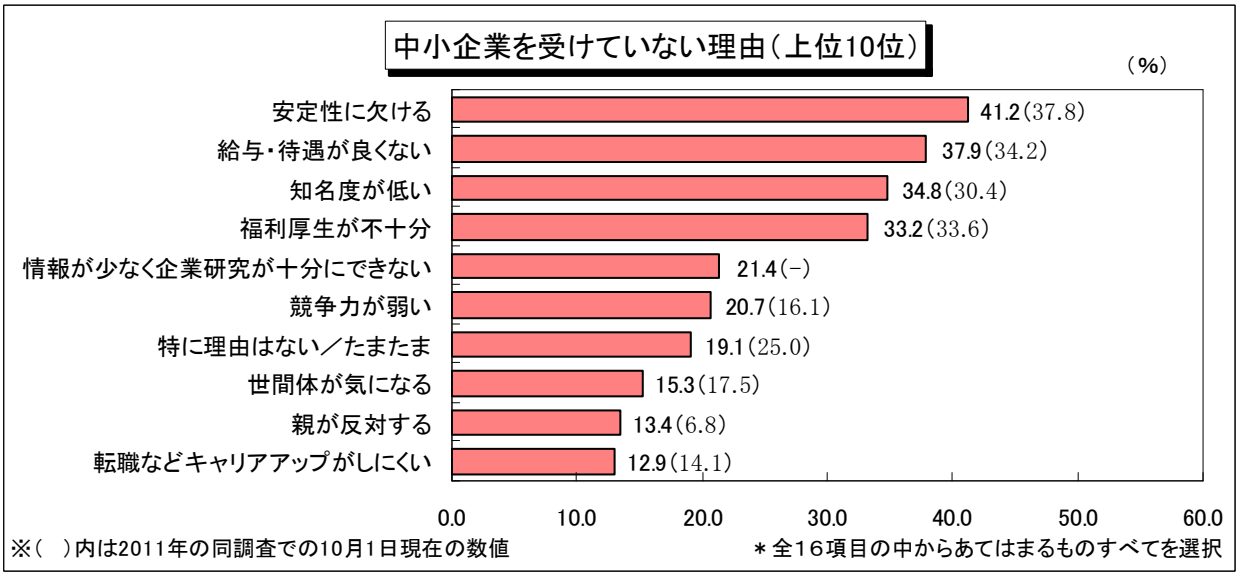
	全体
家族・親戚	69.6
友人	39.8
大学の先輩／ＯＢ・ＯＧ	13.3
他の企業（就職決定企業など）の人事担当者・リクルーター	8.3
身近な社会人（アルバイト先の社員など）	9.9
キャリアセンターの職員	18.8
内定辞退企業の人事担当者・リクルーター	5.0
ゼミ・研究室の指導教授	13.3
他の内定者	4.4
その他	1.1
特にいない／誰にも相談していない	16.6

７．中小企業への選考応募状況

従業員 300 人未満の中小企業への応募経験を聞いた。「受けたことがある」は 62.1%と、前年より 11.7 ポイント伸びた。今年 3 月調査で「中堅中小企業を中心に活動する」という回答は 14.0%にとどまっていたが、就職活動を進める中で、実際に中小の門を叩いた学生は少なくなかった。中小企業を受けた理由を見ると、応募の入口に繋がるキーは「仕事」「業界」「場所（地元か否か）」であることに気付く。これらが志向と合えば、規模に関係なく応募する可能性があるということだ。いかにしてこうした学生を応募に結びつくようにするか、まだまだ工夫の余地がありそうだ。





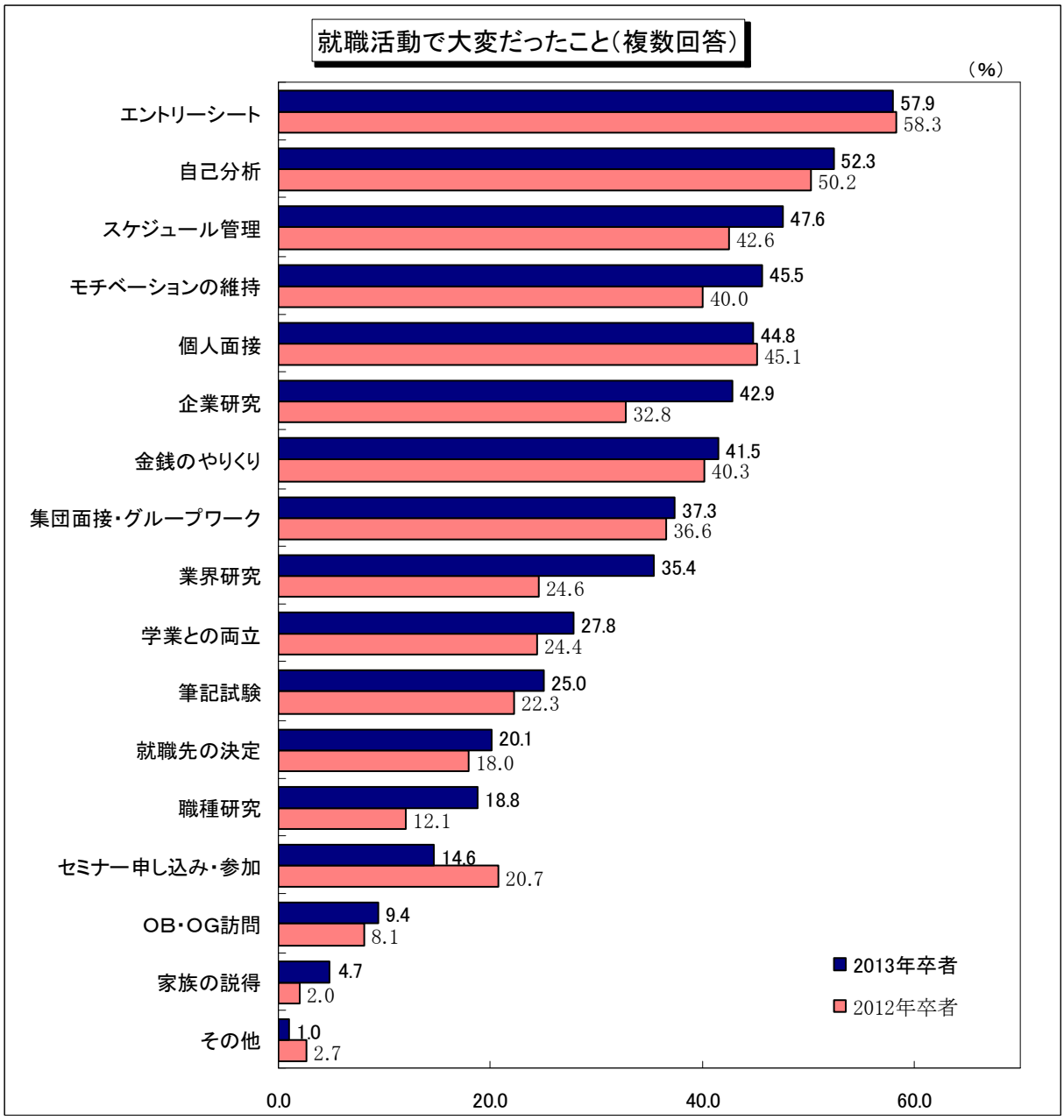


８．就職活動で大変だったこと

全モニターを対象に、就職活動で大変だったことを聞いた。あてはまるものをいくつでも選んでもらったところ、1 位「エントリーシート」、2 位「自己分析」と、上位 2 項目は変化なく、依然苦労の種となっている様子が分かる。

一方で、増加が目立つのが「業界研究」「企業研究」で、ともに前年調査より 10 ポイント以上増えている。今期は、就職活動開始が 2 カ月遅れたことで、業界理解・企業理解が不足している学生が多かったと総括する企業が多いが、学生側も大いに自覚していたようだ。

逆にポイントを減らしたのは「セミナー申し込み・参加」。前年の 20.7%から 14.6%へと約 6 ポイント減少した。2 年前の同調査では 31.8%だったので、この 2 年で半減した。スマートフォンの活用で WEB 予約がスムーズになったことと、企業が開催するセミナーの数（参加枠）が増えたことが、要因として考えられる。



株式会社ディスコ
キャリアリサーチ

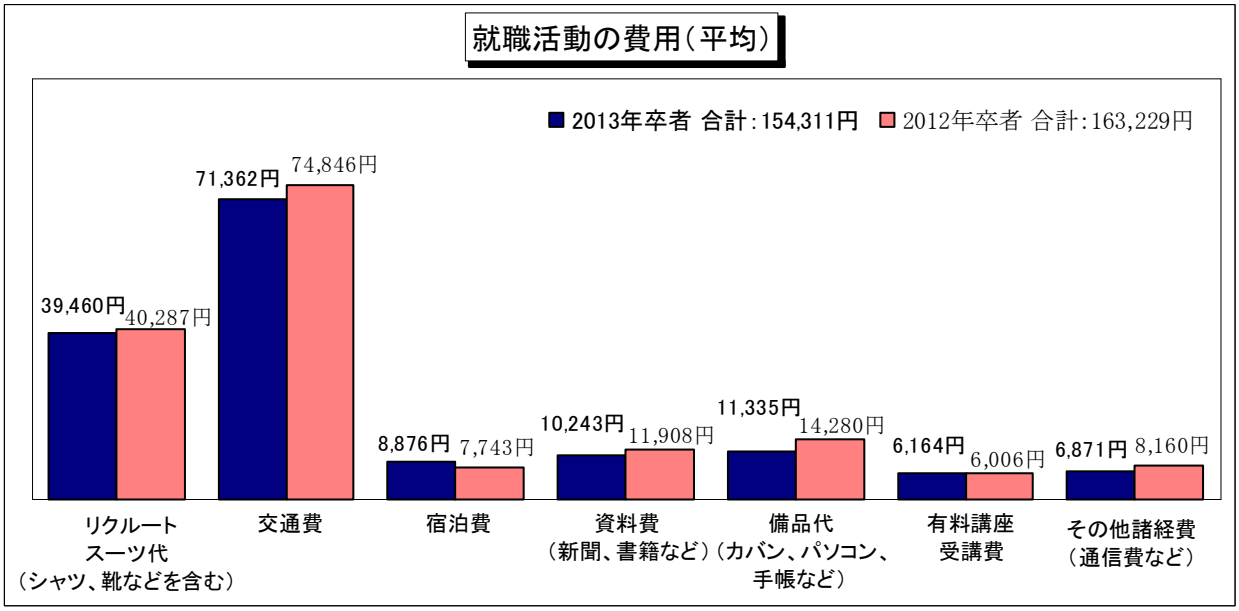
９．就職活動の費用

就職活動にかかった費用について、「リクルートスーツ代」「交通費」「宿泊費」「資料費」「備品代」「有料講座受講費」「その他諸経費」の７つの項目ごとに金額を聞いた。各項目の平均を算出し足しあげると 154,311 円となり、前年調査の 163,229 円を 8,900 円余り下回った。今年は前年より早いペースで内定が出され、早期に就職活動を終える学生が多かったことが、全体の費用軽減につながったと見られる。減少額が一番大きいのは「交通費」だが、前年の 74,846 円から 71,362 円へと約 3,400 円減った。期間短縮でセミナーや面接の日程が重複し、一日に集中して回ることが多かったほか、WEB 上でセミナーを視聴する機会が増えたことも、交通費減少に貢献したのだろう。

費用を地域別に見ると、平均額が最も高いのが前年同様「中国・四国」で、221,432 円。他に 20 万円を超えているのは「九州・沖縄」217,462 円。いずれも交通費が 10 万円を超える地域だ。逆に、安いのは「関東」125,231 円、「近畿」144,135 円といった都市圏。交通費・宿泊費の違いが合計額に大きく影響している。

なお、各項目について「0 円」と回答した人を分母から除くと、全体の７割超が「0 円」と回答した「宿泊費」は 8,876 円から 34,462 円へと上がり、地域間格差はより顕著となる。また、「有料講座受講費」は、「0 円」回答を除くことで 6,164 円から 42,691 円へと跳ね上がる。

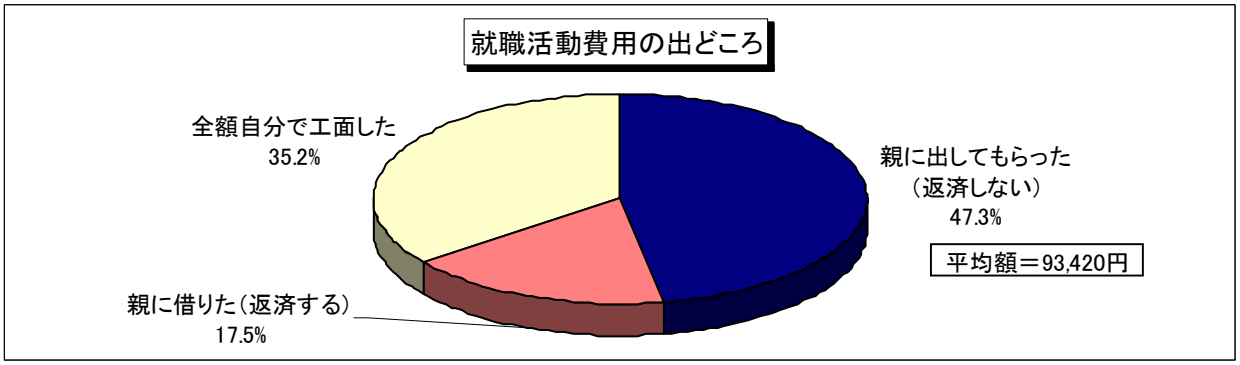
今回初めて就職活動費用の出どころについて聞いたが（グラフは次ページ）、「全額自分で工面した」は 35.2%と３人に１人にとどまり、「親に出してもらった（返済しない）」が 47.3%と半数近くにのぼった。これだけ高額になるとアルバイトなど自分で工面するのは難しいのだろう。



（円）

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
合　計	164,843	174,429	125,231	172,548	144,135	221,432	217,462
リクルートスーツ代	29,931	32,571	42,155	40,034	38,859	37,351	38,218
交通費	89,941	91,190	46,164	89,728	65,441	117,514	119,163
宿泊費	17,804	14,075	1,199	10,612	5,619	27,928	27,343
資料費	12,141	10,008	9,951	10,075	9,390	12,960	10,592
備品代	7,692	8,063	11,162	14,160	12,387	11,490	9,182
有料講座受講費	1,412	11,822	7,333	3,544	4,732	5,828	6,960
その他諸経費	5,922	6,698	7,266	4,395	7,707	8,363	6,004

株式会社ディスコ
キャリアリサーチ



■就職活動の費用について

○名古屋に住んでいたが、セミナーや説明会で大阪・東京に出向くことが多く交通費の出費が馬鹿にならなかった。名古屋で開かれるものも多々あったので、まだよかったが、それぞれの地方都市でもっと説明会を増やしてほしい。 ＜総額 260,000 円＞

○交通費があまりにも高いので、就活生限定の学割を設けてほしい。 ＜総額 130,000 円＞

○地方学生のため 2 月から 4 月までの 3 カ月間東京でルームシェアをしておりました。 ＜総額 210,000 円＞

○就活のグッズをそろえるだけで、結構なお金がかかります。特に女子は、化粧品を買ったり、メイクレッスンを受けたり、お高い証明写真を撮ったり…と出費が重なります。十分な貯金と親からの支援を受けられるようにすることが大事だと思いました。 ＜総額 285,000 円＞

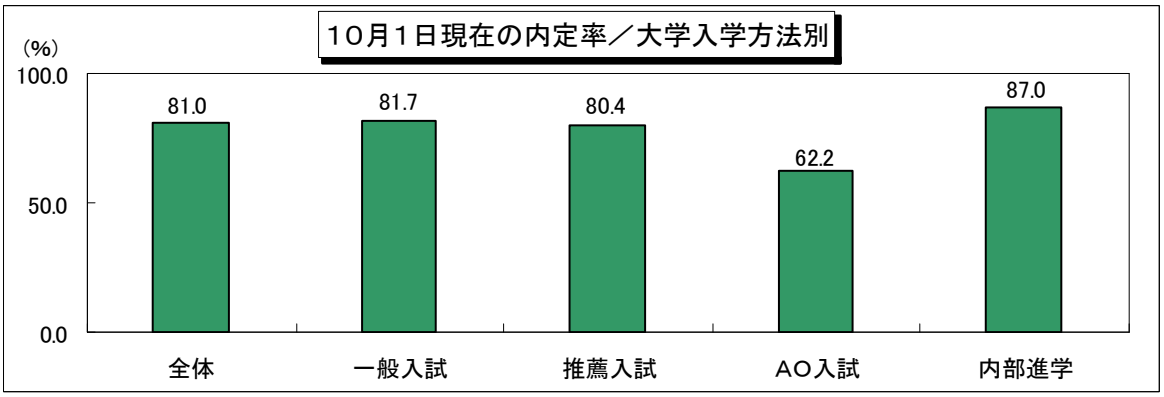
○靴は履き潰すことが多く何度か買い替えました。スーツも次第にくたびれてきたので作り直しました。私は両親に大分助けてもらいましたが、それでも金銭的にはきつかったです。 ＜総額 360,000 円＞

○スーツやパソコンの購入が特に大きな出費で辛かった。東京などへ面接に行くときは高速バスを主に利用したため思ったより安く済んだ。金券ショップを活用することで飲食代の節約に役に立った。 ＜総額 290,000 円＞

○「色々お金がかかってるんだな」とは感じた。しかし、まわりを見ていると、更に多くの費用をつぎ込んでいる人たちもいるので、それに比べると、ずいぶん安く上がったほうかなと感じる。 ＜総額 121,000 円＞

○就職活動を無事終えられたからこそ、投資だったと思えるようになりました。 ＜総額 270,000 円＞

≪参考データ≫



《調査概要》

調 査 対 象 ： 2013 年 3 月卒業予定の全国の大学 4 年生（理系は大学院修士課程 2 年生含む）
回 答 数 ： 1,122 人（文系男子 388 人、文系女子 297 人、理系男子 327 人、理系女子 110 人）
調 査 方 法 ： インターネット調査法
調 査 期 間 ： 2012 年 10 月 1 日～9 日
サンプリング ： 日経就職ナビ 2013 就職活動モニター

◆本資料に関するお問い合わせ先 ： 03-5804-5567／株式会社ディスコ キャリアリサーチ

「日経就職ナビ 就職活動モニター調査」は、株式会社日経HRと株式会社ディスコが大学生の就職活動状況を調査することを目的として実施しています。
日経就職ナビは日本経済新聞社が主管し、株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。